

## 2. 足利の歴史文化の特性

### (1) 足利の歴史文化の特性把握にあたっての考え方

これまで足利では、日本史上特筆すべき事象として中世豪族武士団・足利氏に関わることや、日本最古の学校である足利学校等の歴史研究、足利の歴史を原始古代から近現代にかけての通史の叙述、あるいは個別の文化財についてや種別ごとの調査研究を中心に進められてきた。

本項では、このような先学の研究成果等を踏まえるとともに、自然環境・地理的環境や足利が歩んできた歴史の変遷を明らかにすることで、足利固有の歴史文化の特性を見出すこととする。

本構想では、歴史文化を、地域が有する特徴的な自然環境・地理的環境と、各時代においてそこに暮らしを営んできた人々との関係や、他地域との交流等により生み出されてきた人間の生活様式の総体と捉え、それを表す所産としての文化財は、単に過去の事物（昔につくられたものであるが、現在はその本来の機能を失っているもの等）のみならず、現代においても生きた存在として受け継がれている事物までを対象とする。

以上の考え方に基づき、足利の歴史文化の特性の把握は、以下に示すプロセスによって行う。

#### i. 足利の自然環境・地理的環境の特徴の把握

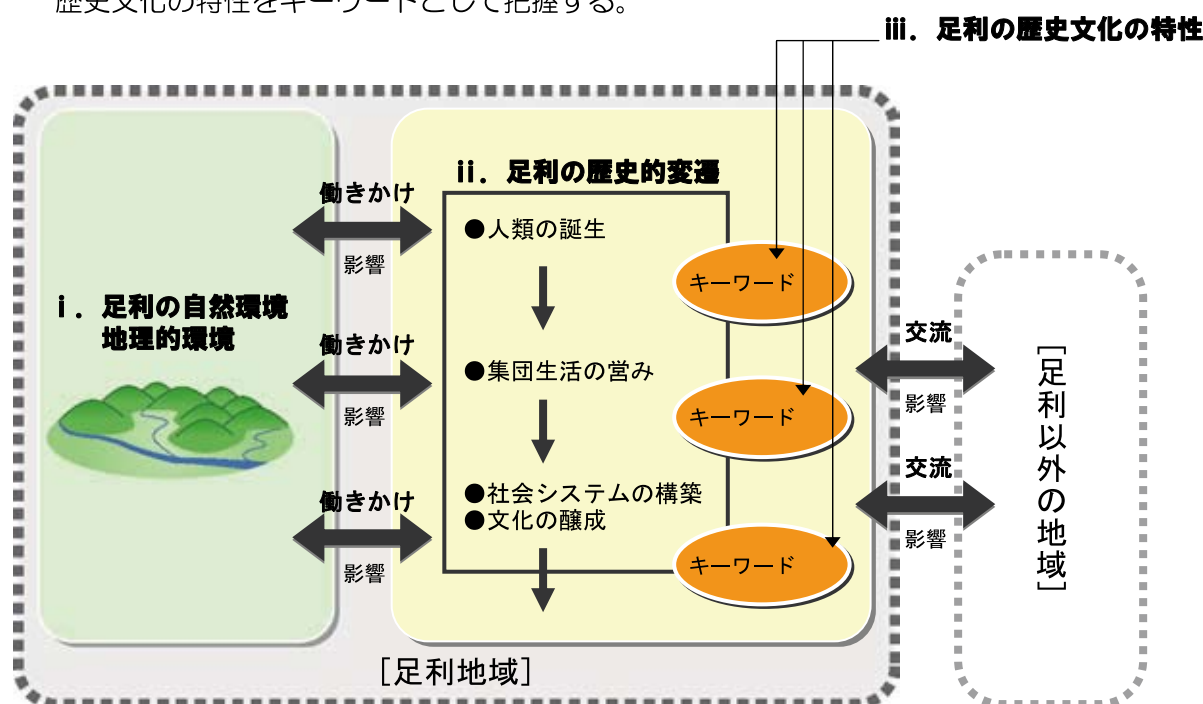
足利の文化を育んだ基盤として、地形・水系・植物等の面から、足利の自然環境・地理的環境の特徴の把握を行う。

#### ii. 足利の歴史の変遷の把握

人々が自然環境・地理的環境とどのような関わりをもちながら、社会を構築し、生活を営んできたかという歴史の変遷を明らかにする。

#### iii. 足利の歴史文化の特性の明確化

足利の自然環境・地理的環境及び歴史の変遷を踏まえた総合的な分析・整理を行い、足利の歴史文化の特性をキーワードとして把握する。



図：歴史文化の特性把握の考え方（概念図）

## (2) 足利市の自然環境・地理的環境

足利市は北方に足尾山地、中央に渡良瀬川、南に関東平野が開けた地に位置し、その自然環境・地理的環境の特徴は以下のように整理できる。

### i. 複雑で起伏に富んだ山並み

日光の高い峯々から南下する足尾連山は、さらにその尾根が幾筋にも分岐しており、足利は、この山並みの端部に広がる野や丘で構成された起伏に富んだ地であった。

とりわけ、両崖山等の複雑で起伏に富んだ山陵は高低差があるものの、北方に重畳たる足尾山系を背負い、南は関東平野が一望できる山塊であるとともに、信仰の対象や、戦国の世では監視・要害の拠点として活用されてきた。

また、かつては、岩石、石材、木材といった資源を生み出す場所でもあった。

### ii. 渡良瀬川等の河川

足尾峡谷に源を発する渡良瀬川は桐生周辺から水勢を緩め蛇行しつつ足利の野を横切っていた。小俣川・松田川・名草川（袋川を含む）等も山間を南流し、渡良瀬川に合流している。

後氷期の温暖となった頃、植物が針葉樹林から落葉広葉樹へと変わり動物相も変化しつつあった。また、雨量も多くなり河川等の水かさも増し魚介類も豊富になった頃、自然の恵みを求めて山里や水辺に人々が暮らしを営んだと考えられる。さらに、河川は線状に延びる特徴を有していることから舟運としての利用も活発化し、人々の暮らしを支えていた。

一方では、豪雨等に伴い渡良瀬川はたびたび、氾濫・洪水を繰り返し、地域住民の生活を脅かす要因ともなっていた。中世頃までの渡良瀬川の河道は、群馬県太田市市場と足利市借宿の間を南下し、今の矢場川に沿って流れ、下野田付近で再び現在の渡良瀬川の位置に戻っていた。

現在の河道に近づいたのは、永禄5年（1562）と8年（1565）に起きた大洪水を契機としているものと考えられている。

また、渡良瀬川は、足尾銅山開発による鉱毒事件、昭和22年（1947）のキャサリン台風による洪水等、近代以降もたびたび災害を経験している。

### iii. 山陵部に囲まれた野と渡良瀬川南方に広がる湿潤な平野

複雑で起伏に富んだ山陵に囲まれた山並みの端部には野が広がり、人々の生活の拠点として居住地、農業を通じた生産地として活用された。

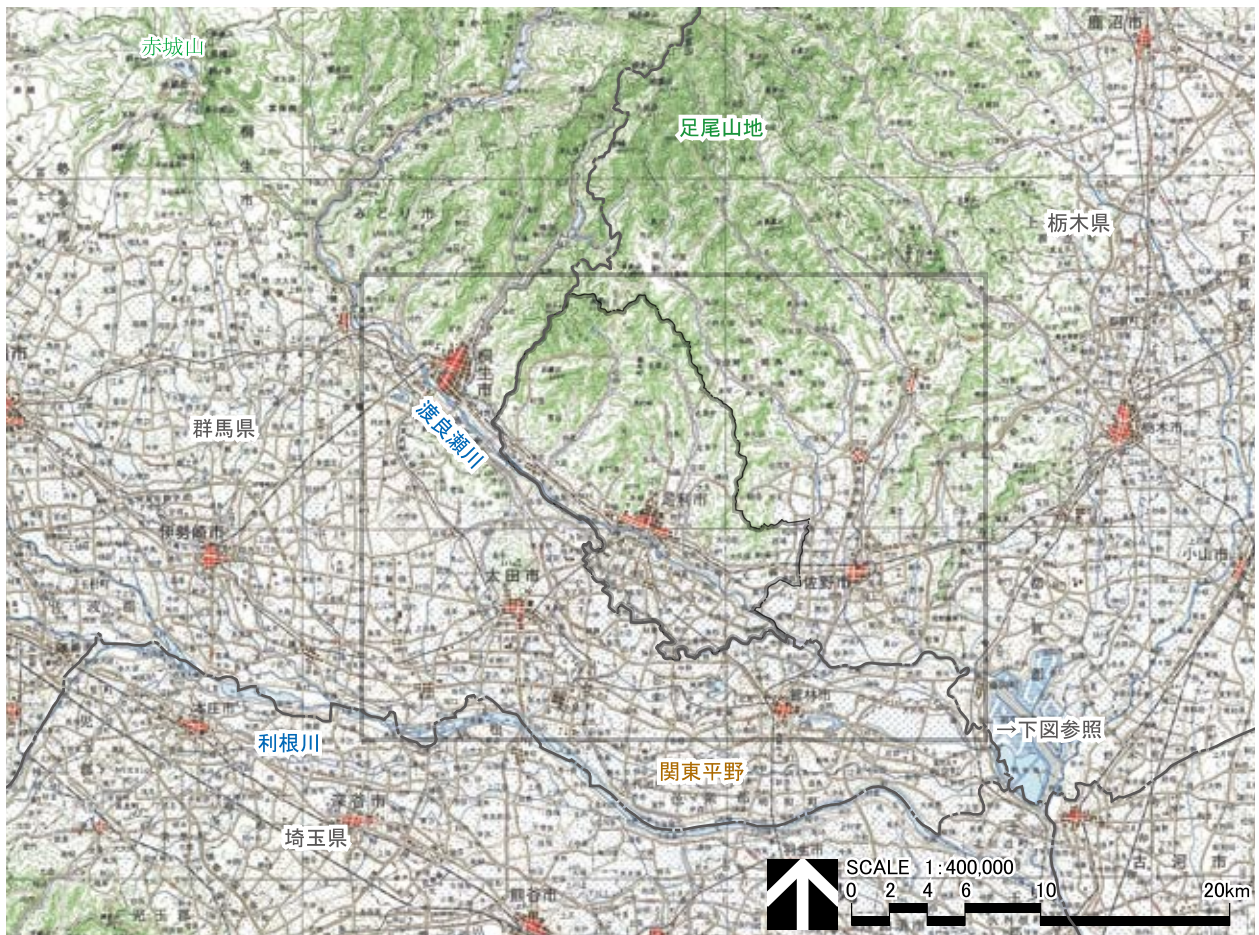
渡良瀬川の南に広がる平野には点々と台地が続いており、湿潤な土地でもあったことから、生産地の性格を強めた。

### iv. 東北と関東の中間地点となる交通の要衝

足利は、北部に足尾山地、南部に関東平野が広がり、中央部を渡良瀬川が流れる。山地と平野の結接点に位置するとともに、地理的には東北地方と関東の中間地点となる交通の要衝で、陸域交通・水上（舟運）交通を確保することが可能であった。足利の自然環境・地理的環境は、足利と他地域の文化交流を促進する要素となってきた。

### v. 両毛地域の中心地

足利は栃木県と群馬県の県境にあり、独自の文化圏、経済圏である両毛地域の中心的な位置にある。



図：足利市と周辺地域の地理的環境（広域）



図：足利市と周辺地域の地理的環境

### (3) 足利の歴史の変遷

豊かな自然のめぐみの中で人々は、狩猟採集から水田耕作へ経済活動を変化させながら、周辺地域と活発な交流を繰り返し、独自の文化を育んだ。史跡藤本観音山古墳をはじめとする数多くの古墳がその痕を物語っている。古代になると律令制のもと国家主導の国造りが進められ、足利は足利郡と梁田郡となり郡衙が置かれ、条里制による土地区画整理がされた。足利郡には奥州経営のための前進基地として、また都と奥州とを結ぶ東山道の要衝として駅家がつくられた。

平安時代後期になると後三年の役を契機に源義家が足利を領有する一方で、藤原姓足利氏も足利を領有し、足利城を構えた。律令制が崩壊し、各地で皇族や貴族、有力寺社により荘園が経営されるようになると、足利郡は足利荘となり、梁田郡は伊勢神宮領梁田御厨となる。

源姓足利氏と藤姓足利氏による領有権の争いは、源平合戦の勝敗により決することとなった。鎌倉幕府創設に尽くした足利義兼は源氏の嫡流であると同時に源頼朝の妻の妹を娶るなど有力御家人としての地位を築いた。義兼は方二町の規模をもつ館を足利の中心に構え、足利の北東・鬼門の位置に榊崎寺を創建し、新しいまちづくりを進めた。足利氏はその後尊氏の代に室町幕府を開き将軍の地位を得た。足利氏歴代当主にとって足利は父祖の地として守られるべき土地となった。足利氏が残した寺社や遺跡などが市内には数多く残されている。

律令期の国学の遺制とも言われる足利学校は、小野篁創建説、義兼創建説もある。室町時代には足利氏の重臣であり関東管領であった上杉憲実により再興され、戦国時代には日本国中最も大きく、有名な学校として西洋にまで喧伝された。室町時代足利荘を支配した長尾氏は上杉氏の家宰で、足利学校を勧農から現在地に移設したとされている。戦国時代になると長尾氏は戦国大名へと成長し、足利城を本城とする本城支城体制を整えた。市内には長尾氏が築いたとされる山城が数多く残されている。

近世になると新たに日光例幣使道が整備されると共に江戸を往復する舟運の河岸が造られた。宝永以降、戸田氏の足利藩の支配となり足利の中心部に陣屋が設けられた。活発な経済、文化交流の中、物外軒茶室や徳蔵寺五百羅漢像なども作られた。幕末から明治時代には古代から伝統のある織物産業が隆盛し、昭和初期にかけて日本一の銘仙生産地として知られた。古い街道沿いには柳田家など織物で栄えた商家や八木節などが残る。

万国博覧会への絵画の出品によって海外にも知られた田崎草雲は、画家としての業績はもちろん、明治時代の人材を育てた功績も大きい。織物産業の隆盛を背景に近代化が進められ、織物工場や橋など近代化遺産も良質なものが残されている。

太平洋戦争中は多くの織物工場が軍需工場となり、織機類も供出された。戦後、復興した織物工場もあったが、繊維産業の中心はトリコット産業へと移行した。昭和30年代後半には全国でも指折りの産地となった。トリコット産業の多くは中小・零細企業であり、工場生産と並行して、織物の賃機同様外注による内職によって支えられた。高度経済成長期でもあり、市民会館、トリコット団地、東山トンネル、国道50号バイパスの建設などの都市インフラ整備が積極的に進められた。

昭和40年代後半以降は、繊維産業が海外へ進出するようになり、足利においても繊維産業は減少し、現在ではゴム・電気・金属・プラスチック製品の製造等分野が広がっている。こうした新しい分野での製造技術の多くはそれまでの繊維産業を基盤にしたものであるとともに、中小・零細企業を中心とした構造も変わっていない。こうして進取の気性に富む足利人は、伝統技術に固執することなく、社会情勢や経済状況の変化を乗り越えてきた。

表：足利の歴史の変遷（1/4）

時代		足利の主な出来事	各時代の空間特性図
原始	旧石器～縄文時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧石器時代</li> <li>寒冷期が終り、気候の温暖化に伴い、台地上に神畑遺跡や駒場遺跡、高松遺跡等、集落が形成される。</li> </ul>	<p>● 古墳時代前期の古墳 ● 古墳時代中期の古墳 ● 古墳時代後期の古墳</p>
	弥生時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>稲作技術が足利にも伝播し、台地の裾や河川の扇状地の末端部などの低地に集落が形成される。 (菅田西根遺跡、反過遺跡、常見遺跡、入小屋遺跡等)</li> </ul>	
古代	古墳時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>4世紀頃、現在の矢場川(当時の渡良瀬川)流域を中心とした地域に<b>藤本観音山古墳</b>や<b>小曾根浅間山古墳</b>等が築かれる。[前期]</li> <li>5世紀になると、矢場川流域の前期古墳文化が北上し、<b>勸農車塚古墳</b>、<b>神畑1号墳</b>など山裾付近に古墳が築かれるようになる。[中期]</li> <li>6～7世紀にかけては、首長墓群が毛野地域に造られ、北部の山麓部を中心に数多くの群集墳が築かれる。[後期]</li> <li>山麓部に須恵器窯が築かれる。(田島岡古窯跡等)</li> </ul>	<p>[古墳時代の足利]</p>
	奈良時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央政権・律令国家体制の影響に伴い、足利郡と梁田郡に郡司(郡衙)が置かれ、<b>条里制</b>と呼ばれる土地区画制度が導入された。(国府野遺跡、田中・朝倉条里跡、大沼田条里跡等)</li> <li>畿内と東北地方を結ぶ幹線道路として、<b>東山道</b>が整備され、駅(うまや)が設置される。</li> <li>50戸を1単位とする里(後に郷)制度が導入される。</li> <li>大宝3年(703)「足利郡波自可里(はじかり)」から藤原京(飛鳥)に鮎が献上される。</li> <li>天平勝宝4年(752)足利郡土師郷50戸、梁田郡深川郷50戸が東大寺の封戸となる。</li> <li>大規模な集落が営まれる。(常見遺跡、反過遺跡等)</li> <li>一説には国ごとに設置された教育施設である国学が足利におかれ、足利学校はその遺制であるとされる。</li> <li>行基が足利を訪れ、民衆に仏教を普及し、<b>大岩山最勝寺</b>、<b>行道山淨因寺</b>等の寺院を開設したとされている。</li> <li>伝統的な山岳信仰の影響を受けながら、密教寺院が建立される。</li> </ul>	<p>[奈良時代～平安時代にかけての足利]</p> <p>■ 群衙 ■ 寺院 ◆ 神社 ● 集落 ■ 条里</p>
	平安時代(前期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大同4年(809)東大寺の僧・定恵が世尊寺を創建する。</li> <li>天慶3年(940)平将門の乱起こる。世尊寺において将門調伏の祈禱がされ、<b>鷄足寺</b>と改める。</li> <li>天曆4年(950)東大寺に織物が献上される。</li> <li>中央貴族・寺院の荘園が拡大し、武士団が台頭するようになる。</li> <li>一説に参議であった小野篁が足利学校を創設したとされる。</li> <li>天喜2年(1054)藤原成行が足利に入り、築城する(藤姓足利氏が台頭)。</li> <li>奥州征伐に向かう源義家が、乱を平定するための祈願として<b>八幡宮</b>を勧進する。</li> </ul>	

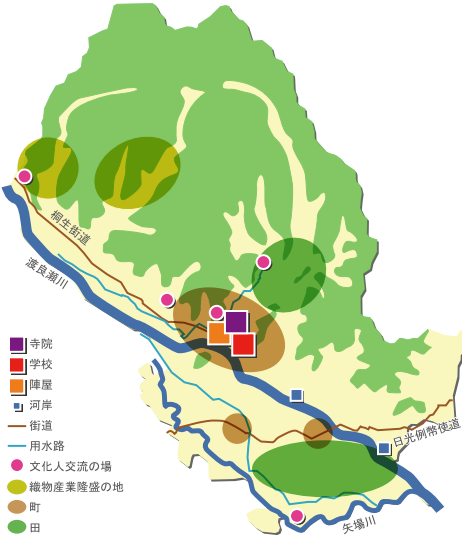

※各時代の空間特性図には、それ以前の時代に成立した要素については基本的に掲載していない。

表：足利の歴史の変遷 (2/4)

時代	足利の主な出来事	各時代の空間特性図
<p>平安時代 (中～後期)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保延 3 年(1137)源義国が義家から伝領された開発地を安楽寿院に寄進し、足利荘が立券される。</li> <li>・ 康治 2 年(1143) 梁田郡衛伊勢大神宮の神領となり<b>梁田御厨</b>が成立する。</li> <li>・ 久安 6 年(1150)源義国が足利荘に下向する。(源姓足利氏の祖)</li> <li>・ 源平合戦により、平氏に味方した藤姓足利氏が滅亡し、足利では源姓足利氏の一円支配となる。</li> <li>・ 足利源氏の棟梁・足利義兼が足利荘の領主になり、政治・行政上の拠点として、<b>居館(足利氏宅跡)</b>を構えた。</li> <li>・ 文治5年(1189)奥州合戦の戦勝祈願のため、足利義兼が<b>樺崎寺(法界寺)</b>を建立する。</li> </ul>	
<p>鎌倉時代</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建久 7 年(1196)足利義兼が東大寺において出家し、足利に退き、居館内に持仏堂を設ける。<b>(鑊阿寺のはじめ)</b></li> <li>・ この頃、足利義兼により子弟の学問所として<b>足利学校</b>創設されたとの説がある。</li> <li>・ 足利義兼以降の足利氏の歴代棟梁が山麓に浄土庭園を伴う<b>寺院</b>を建立する。<b>(法楽寺、智光寺、吉祥寺)</b></li> <li>・ 運慶・快慶等慶派仏師により仏像が造られる。<b>(厨子入大日如来坐像(光得寺蔵)、阿弥陀如来立像(真教寺蔵)、木造大日如来坐像(鑊阿寺蔵)</b>等)</li> <li>・ 武士や僧侶の墓として凝灰岩製五輪塔・層塔、板碑の造立が流行する。<b>(光得寺五輪塔、伝北条時子姫五輪塔、石造層塔(大岩)、禅定院の板碑、浄徳寺の石塔群等)</b></li> <li>・ 鎌倉・京都との流通が盛んになり、船載陶磁器や瀬戸や渥美といった国産陶磁器が搬入される。<b>(白磁四耳壺(樺崎寺跡)、青磁花瓶、香炉(鑊阿寺)等)</b></li> <li>・ 足利氏の家臣団により<b>居館</b>がつくられ、足利における武家社会が確立する。<b>(南氏居館跡等)</b></li> </ul>	
<p>中世</p> <p>室町時代</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 延元3年(1338)足利高氏(尊氏)が、征夷大將軍となり室町幕府を開府する。</li> <li>・ 14 世紀後半から石塔に安山岩が使用される。<b>(南氏墓所(清源寺)、光得寺五輪塔、宝福寺層塔等)</b></li> <li>・ 自給自足から手工業・商業が発展し、「市」が開設される。永享5年(1433)足利荘八日町(現在の緑町)に市がたつ。</li> <li>・ 鎌倉公方、室町將軍により、本貫地である足利の支配権が争われる。</li> <li>・ 応永～永享年間に鑊阿寺、樺崎寺の改修、整備が行われる。</li> <li>・ 永享の乱により鎌倉公方・足利持氏が敗れ、足利は関東管領上杉氏の実質的な支配下となる。</li> <li>・ 永享 11 年(1439)関東管領上杉憲実により<b>足利学校</b>が再興され、貴重な書籍が寄進される。上杉憲実周辺は文化サロンを呈していた。</li> <li>・ 文正元年(1466)上杉氏の重臣・長尾景人が代官として足利荘の<b>勸農城(岩井山城)</b>に入部し、足利は、以降、長尾氏による統治となる。長尾氏は戦国大名に成長する。</li> <li>・ 応仁元年(1467)長尾景人が<b>足利学校</b>を現在の場所に移す。</li> <li>・ 長尾氏や家臣により防御のための<b>城館</b>が築かれる。<b>(足利城跡、富士山城跡、尻無山城跡等)</b></li> <li>・ 西部地域は渋川氏による支配となる。</li> <li>・ この頃足利学校の活動はピークとなり、西洋にも紹介される。</li> <li>・ 渡良瀬川の大洪水が頻発する。</li> </ul>	

※各時代の空間特性図には、それ以前の時代に成立した要素については基本的に掲載していない。

表：足利の歴史の変遷 (3/4)

時代	足利の主な出来事	各時代の空間特性図
<p>近世</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>永禄年間、渡良瀬川の河道がほぼ現在と同じになる。</li> <li><b>三栗谷用水</b>が開かれる。</li> <li>天正 12 年(1584)北条氏が足利を占領する。</li> <li>天正 18 年(1590)豊臣秀吉により北条氏が滅ぼされた小田原合戦で長尾氏は北条方であったため、長尾氏の城地が没収され、長尾氏による足利の支配が終わる。</li> <li>堀川國廣が足利学校で刀を打つ。</li> </ul>	 <p>[江戸時代の足利]</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>足利は幕府や大名などによる相給支配となる。六角氏、人見氏等</li> <li><b>鑊阿寺・足利学校</b>が、徳川幕府による保護を受けることとなる。</li> <li>渡良瀬川の治水事業の展開に伴い、渡良瀬川を利用した舟運が始まる。正保 2 年(1645)には<b>猿田河岸</b>が発足する。</li> <li>日光例幣使の派遣が始まり、<b>日光例幣使道</b>が整備され、八木、梁田に<b>宿場町</b>ができる。</li> <li>陸運、舟運が整備され江戸を始めとする他地域との交流が盛んとなり、文化が発展する。</li> <li>宝永 2 年(1705)足利藩主戸田氏が足利の領主(1万1千石)となり、<b>陣屋</b>を設置し、町として発展する。</li> <li>庶民による信仰が盛んとなり、<b>庚申塔</b>等の石造物の造立や<b>絵馬</b>の奉納が増える。<b>神楽</b>や<b>鳶木遣り</b>なども始まる。</li> <li>天保 3 年(1832)桐生から、足利の織物市場が独立する。足利の織物産業が発展する。</li> <li>渡辺華山が来遊し、<b>足利学校</b>、岡田東塙邸等を訪問し、『毛武遊記』を著わす。<b>巖華園</b>、<b>浄林寺</b>訪問の伝承もある。</li> <li>田崎草雲が足利藩の絵師となり活躍する。</li> <li>慶応4年(1868)梁田宿で官軍と幕軍の戦いが起きる(梁田戦争)。</li> <li>田崎草雲を中心に町を守るため誠心隊が組織される。</li> </ul>	
<p>近代</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治 2 年(1869)版籍奉還。足利藩主・戸田忠行が藩知事となる。</li> <li>明治 4 年(1871)足利藩が廃藩となり、足利県となる。その後、栃木県となる。</li> <li>明治 5 年(1872)<b>足利学校</b>が栃木県に引き渡され、廃校となる。</li> <li>明治 7 年(1874)足利町となる。</li> <li>明治 11 年(1878)画家田崎草雲が蓮袋寺山の山裾の<b>白石山房</b>に移居する。</li> <li>栃木県令・三島通庸により三間道路が開通する。</li> <li>明治 18 年(1885)足利織物講習所(後の栃木県立足利工業高校)が発足する。織物産業が発展する。</li> <li>明治 19 年(1886)<b>足利公園古墳</b>が発掘される。</li> <li>明治 21 年(1888)<b>両毛鉄道会社線</b>(現在の JR 両毛線)小山駅から足利駅まで開通する。猿田河岸の役割が終了する。</li> <li>明治 24 年(1891)<b>友愛義団</b>が荻野萬太郎、磯部安次郎、木村初太郎らによって結成される。</li> <li><b>木村輸出織物工場</b>が建設され、織物の本格的な工場生産が始まる。</li> <li>明治 35 年(1902)<b>渡良瀬橋</b>が竣工する。</li> <li>明治 36 年(1903)第 1 回<b>足利花火大会</b>が開催される。</li> <li>明治 40 年(1907)<b>東武鉄道会社線</b>(現在の東武伊勢崎線)川俣-足利間が開通する。</li> <li>足利町に電話・電気が入る。</li> </ul>	 <p>[明治時代～昭和時代前期の足利]</p>

※各時代の空間特性図には、それ以前の時代に成立した要素については基本的に掲載していない。

表：足利の歴史の変遷（4/4）

時代	足利の主な出来事	各時代の空間特性図
近代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柳原用水沿いに染色工場が急増する。</li> <li>・ 足利織物工場が設立される。足利が日本有数の織物産地となる。</li> <li>・ 大正 3 年(1914)堀込源太が<b>八木節</b>をレコーディングする。</li> <li>・ 大正 4 年(1915)第 1 回鑑行列（<b>鑑年越</b>）が開催される。</li> <li>・ 大正 10 年(1921)市制施行。初代市長・川島平五郎。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 織物産業の興隆に伴い都市基盤が整備される。</li> <li>・ 昭和 3 年(1928)『足利市史』が刊行される。</li> <li>・ 昭和 6 年(1931)水道の給水事業が開始される。</li> <li>・ 昭和 8 年(1933)両毛線足利駅舎が新築・落成する。</li> <li>・ <b>鏝阿寺</b>本堂が解体修理される。</li> <li>・ 昭和 9 年(1934)<b>渡良瀬橋</b>が鉄橋に架け替えられる。</li> <li>・ 昭和 10 年(1935)足利市歌・市旗が制定される。</li> <li>・ 昭和 11 年(1936)<b>中橋</b>が竣工する。</li> <li>・ 昭和 12 年(1937)織物産業の発展を祈願して、<b>織姫神社</b>が新築される。</li> <li>・ 昭和 14 年(1939)<b>足利銘仙</b>の生産が日本一となる。</li> <li>・ 昭和 16 年(1941)太平洋戦争始まる。</li> <li>・ 昭和 20 年(1945)織姫神社前通り・昭和通りが強制疎開となり、道路が拡幅される。（疎開道路）</li> <li>・ 太平洋戦争終戦</li> </ul>	
現代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昭和 21 年(1946)農地改革が実施される。</li> <li>・ 商工会議所が設立される。</li> <li>・ 昭和 22 年(1947)初の市長選挙が実施され、木村浅七が当選する。</li> <li>・ キヤサリン台風により大きな被害を受ける。</li> <li>・ 昭和 24 年(1949)<b>足利花火大会</b>が12年ぶりに復活する。</li> <li>・ 戦後、毛野村を始めとして周辺町村を合併する。</li> <li>・ トリコット産業が盛んとなり、昭和 35 年(1960)トリコット工業団地が造成される。昭和 41 年(1966)には生産が日本一となる。</li> <li>・ 昭和 41 年(1966)市民会館が完成する。</li> <li>・ 岩井橋が開通する。</li> <li>・ 昭和 42 年(1967)足利工業大学が開校する。</li> <li>・ 昭和 44 年(1969)<b>草雲美術館</b>が開館する。</li> </ul>	



## (4) 足利の歴史文化の特性

足利の歴史文化は、足利の自然環境・地理的環境と人々との関わり他地域との交流によって形成された各時代における足利の社会の中で生み出され、あるいは淘汰されていった。

本項では、前項までで整理を行った足利の自然環境・地理的環境及び歴史の変遷を踏まえ、以下に示すように、**足利の歴史文化の特性**の整理と、その歴史文化の特性を象徴する**キーワード**の抽出を行う。

### <足利の歴史文化の特性>

#### i. 足利の風土を形づくる自然・地勢

北に広がる複雑で起伏に富んだ山並み、山陵部に囲まれた平野・湿潤な平野、その間を流れる渡良瀬川が織りなす自然環境のめぐみのもとに、人々は定住をはじめ、自然との対話のもと生活を営んでいった。

#### ii. 街道・舟運の交通の要衝

畿内と東北、関東と東北を結ぶ交通の要衝地であったため、足利には古代より街道がつくられた。また、近世には渡良瀬川を利用した舟運が活発化する等、他地域との交流が盛んに行われていた。

#### iii. 中世の足利

中世における足利は、この地に誕生した武家足利氏及びその後の長尾氏の統治により、政治、教育、信仰、芸術等の面において様々な文化が持ち込まれ、現代にまで繋がる街の基盤をつくりあげた。

#### iv. 街の繁栄を導いた織物産業

古代において、朝廷への献上品として足利の特産品でもあったとされる織物は、近世後半から近代にかけて産業として飛躍的な発展を遂げ、足利の街の繁栄をもたらした。また産業の発展を背景として、芸術文化も花開いた。

#### v. 継承される祈りの形

足利には、古代から中世にかけて隆盛した山岳信仰や仏教に関連する信仰、また絵馬等に代表される民間の人々による信仰等、様々な形の祈りの多くが、現代に至るまで継承されている。

### <キーワード>

古墳

足利郡と梁田郡

足利氏

足利学校

交通の要衝

織物産業

田崎草雲

祈り

かかあ天下

山・川・平野